

Consolidated Business Results & Forecasts

2023年3月期 第2四半期決算説明会

2022年10月28日

株式会社SCREENホールディングス

内容：

- ・ 上期 連結決算の概要 専務取締役（CFO） 近藤 洋一
- ・ 事業環境および業績予想 代表取締役 取締役社長（CEO） 廣江 敏朗

資料取り扱い上の注意

- ・ 本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・ 本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切り捨てで処理しております。比率は四捨五入しております。
- ・ 本資料では、例えば、「FY2023/03」と示す場合、2022年4月1日～2023年3月31日の会計期間を表します。

上期 連結決算の概要

2022年10月28日

株式会社SCREENホールディングス
専務取締役 最高財務責任者 (CFO)

近藤 洋一

上期 連結決算の概要

■ 上期決算実績

- 全社>>
 - ・ 業績堅調、売上、利益ともに上期としては過去最高。7月予想より上振れ
→部材不足などのサプライチェーンの混乱がある中、着実なコントロールが奏功
 - ・ 前年同期比増収増益、営業利益は1.6倍、当期純利益は1.7倍
- SPE>>
 - ・ 全社業績を大きく牽引。売上、営業利益（率）ともに上期としては過去最高
 - ・ 営業利益率は21.7%
- GA、PE：売上、営業利益ともに順調（為替の影響も追い風に）
- BS、ネットキャッシュ1,045億円、自己資本比率は57.5%

FY2023/03 上期 連結業績

前年同期比

	FY2022/03						FY2023/03							
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期 (7月予想)	上期	前年同期比		7月発表予想比	
(億円)														
売上高	828	1,043	1,872	1,039	1,207	4,118	1,018	1,165	2,150	2,184	311	16.7%	34	1.6%
営業利益 営業利益率	86 10.5%	153 14.7%	240 12.9%	160 15.5%	211 17.5%	612 14.9%	178 17.5%	203 17.4%	345 16.0%	381 17.5%	140	58.5% 4.6pt	36	10.6% 1.4pt
経常利益	86	151	237	161	195	594	182	204	335	386	148	62.6%	51	15.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	60	115	176	120	158	454	160	135	260	296	120	68.6%	36	14.2%

FY2023/03 上期 連結業績

前年同期比

(億円)	FY2022/03						FY2023/03							
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期 (7月予想)	上期	前年同期比		7月発表予想比	
売上高	828	1,043	1,872	1,039	1,207	4,118	1,018	1,165	2,150	2,184	311	16.7%	34	1.6%
SPE	597	816	1,414	846	932	3,193	846	919	1,775	1,765	351	24.8%	△9	△0.5%
GA	96	112	209	99	123	433	105	116	195	222	13	6.2%	27	14.0%
FT	102	72	175	55	101	332	30	84	110	115	△60	△34.4%	5	4.9%
PE	23	34	58	33	40	133	33	42	60	76	17	30.5%	16	26.9%
その他および調整	8	5	14	2	8	25	2	2	10	4	△9	△66.6%	△5	△52.8%
営業利益	86	153	240	160	211	612	178	203	345	381	140	58.5%	36	10.6%
営業利益率	10.5%	14.7%	12.9%	15.5%	17.5%	14.9%	17.5%	17.4%	16.0%	17.5%	4.6pt		1.4pt	
SPE	88	154	243	171	214	628	188	195	375*	383	140	57.9%	8	2.3%
GA	2	4	6	4	5	16	6	9	10*	16	9	143.1%	6	62.4%
FT	2	△0	1	△3	7	5	△8	△2	△10*	△10	△12	-	△0	-
PE	2	7	9	6	5	20	4	11	10*	15	6	68.2%	5	58.7%
その他および調整	△8	△10	△19	△17	△21	△58	△12	△10	△40*	△23	△3	-	16	-
経常利益	86	151	237	161	195	594	182	204	335	386	148	62.6%	51	15.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	60	115	176	120	158	454	160	135	260	296	120	68.6%	36	14.2%

■ SPE：半導体製造装置事業

■ FT：ディスプレイ製造装置および成膜装置事業

■ GA：グラフィックアーツ機器事業

■ PE：プリント基板関連機器事業

* セグメント別営業利益予想：5億円刻みの「約」表記

FY2023/03 上期 連結業績

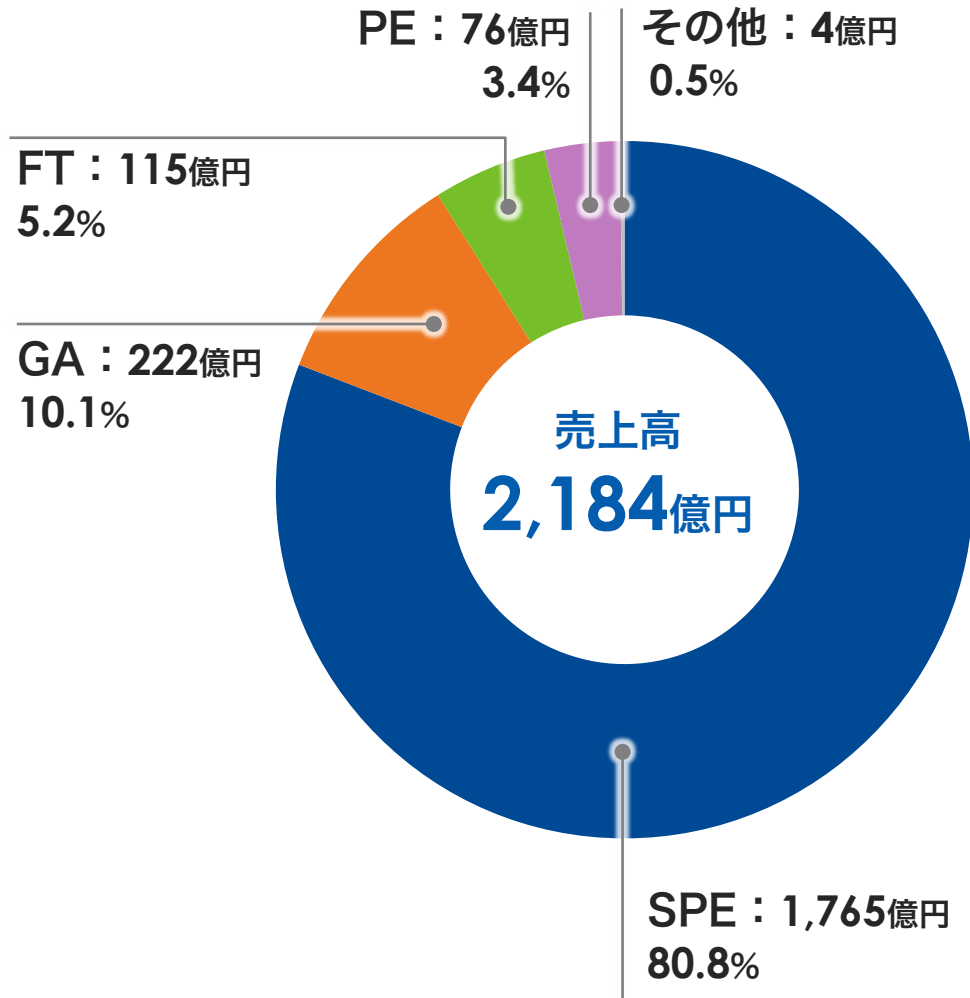
セグメント別

■ 上期、前年同期比 (YoY) □ 2Q、1Q比 (QoQ)

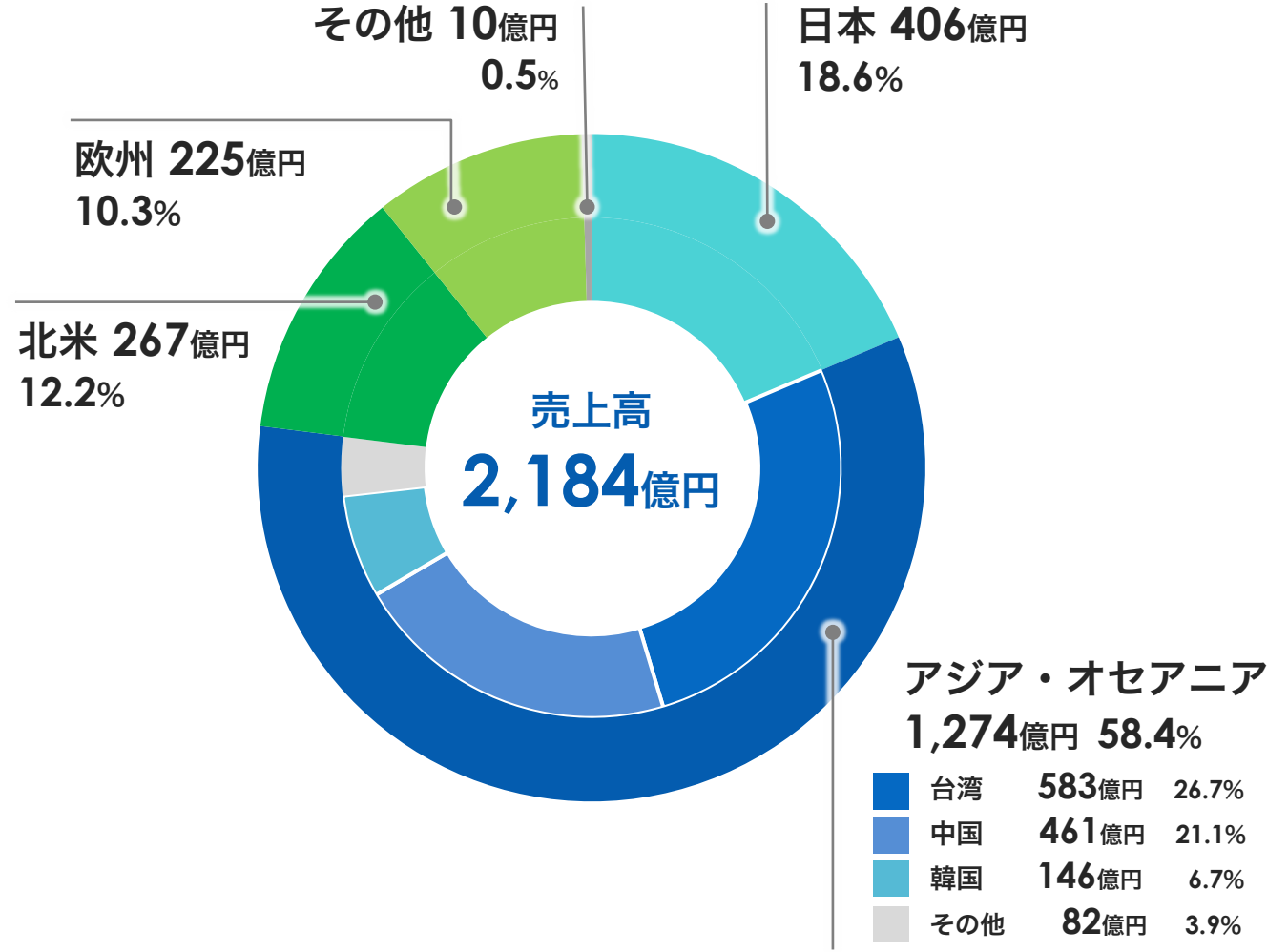
			FY2022/03			FY2023/03		
			1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期
SPE	メモリー向けは減少したものの、ファウンドリー、ロジック向けの売上増加。台湾、欧州向けの売上増加	売上	597	816	1,414	846	919	1,765
	台湾向けが大幅に増加	営業利益 営業利益率	88 14.9%	154 18.9%	243 17.2%	188 22.3%	195 21.3%	383 21.7%
GA	PODなどの装置、リカーリングビジネス (RB) とともに売上増加。為替変動が追い風となり増収増益	売上	96	112	209	105	116	222
	RBの売上は高位安定 (為替変動が追い風)	営業利益 営業利益率	2 2.7%	4 3.6%	6 3.2%	6 6.4%	9 8.2%	16 7.3%
FT	上海ロックダウンの影響などを受け、売上、利益ともに減少	売上	102	72	175	30	84	115
	売上は回復、赤字幅減少	営業利益 営業利益率	2 2.2%	△0 △0.9%	1 0.9%	△8 △27.0%	△2 △3.1%	△10 △9.4%
PE	データセンター需要の拡大を受け、直接描画装置の売上、利益ともに増加。為替変動が追い風となり増収増益	売上	23	34	58	33	42	76
	利益率は大きく増加、四半期として過去最高 (為替変動が追い風)	営業利益 営業利益率	2 9.0%	7 21.0%	9 16.2%	4 14.0%	11 26.2%	15 20.8%

FY2023/03 上期 連結業績

セグメント別売上高

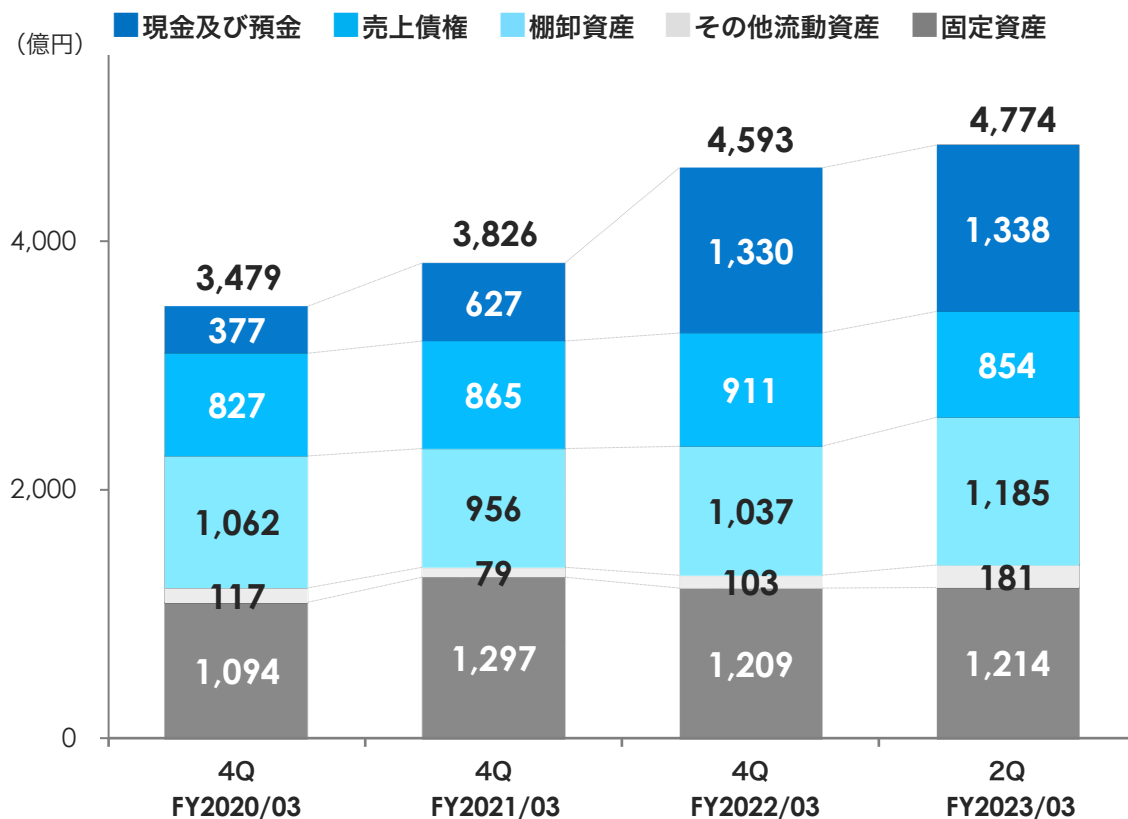


地域別売上高

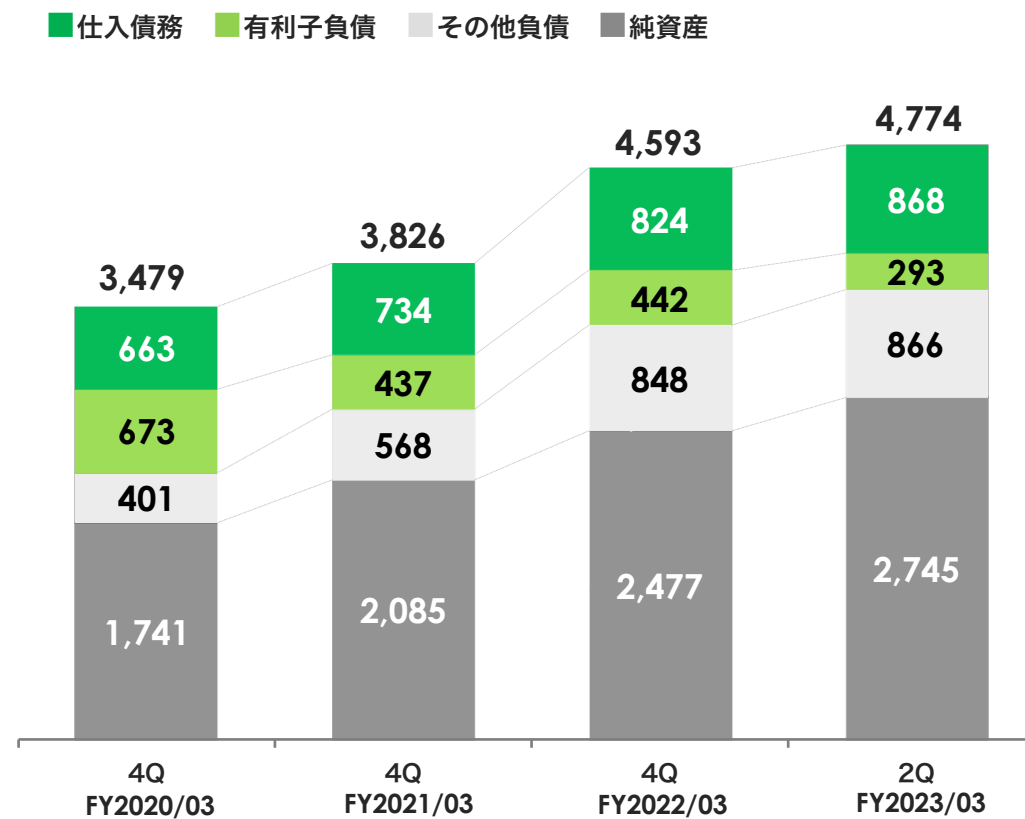


財務状況：連結貸借対照表

資産



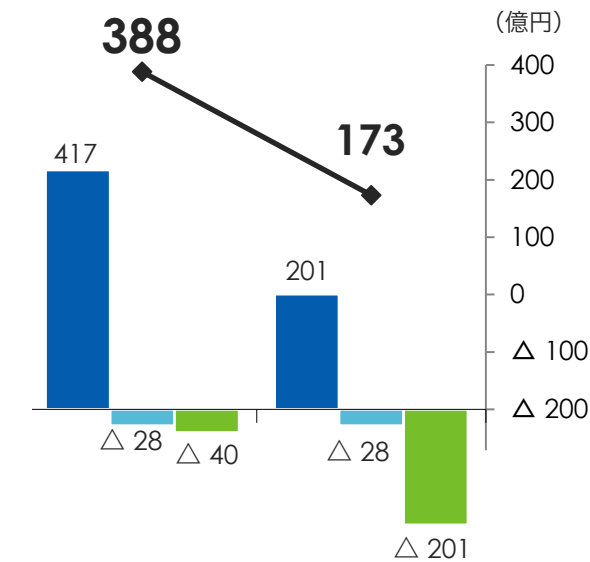
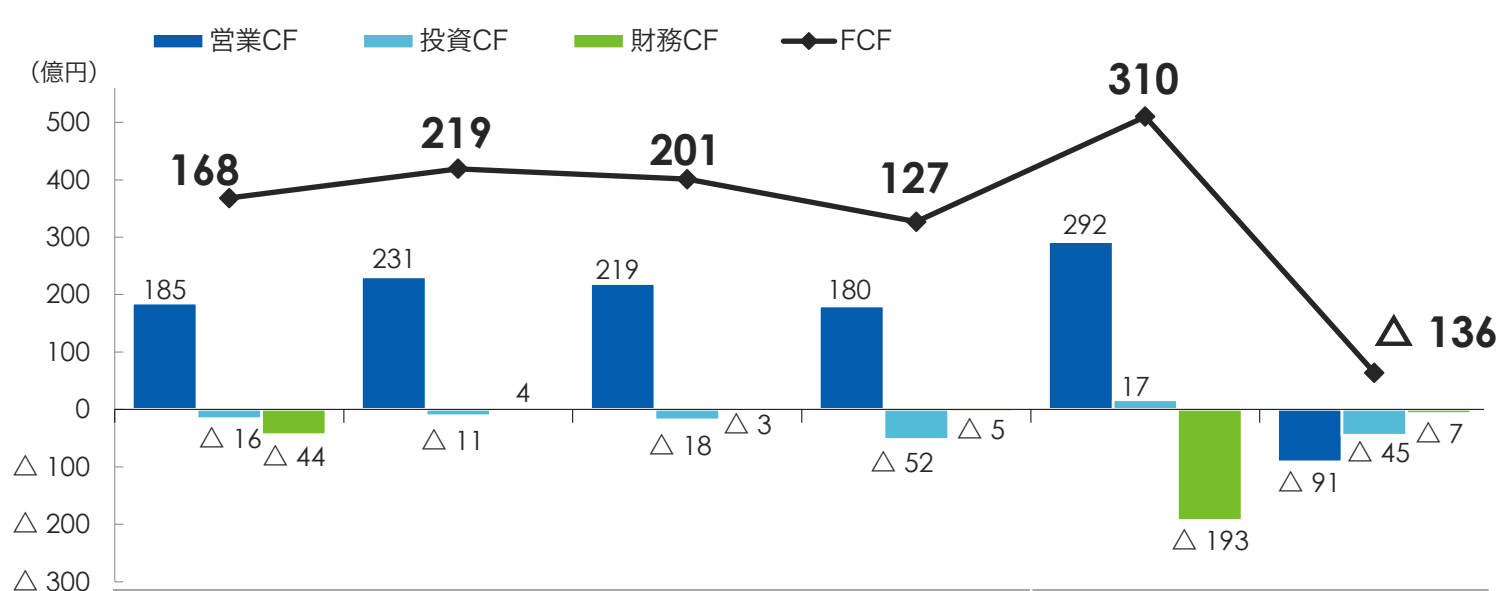
負債および純資産



■ 自己資本比率は57.5% (FY2023/03 2Q)

■ 1,045億円のネットキャッシュ

財務状況：連結キャッシュ・フロー



(億円)	FY2022/03				FY2023/03	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
営業CF	185	231	219	180	292	Δ91
投資CF	Δ16	Δ11	Δ18	Δ52	17	Δ45
FCF	168	219	201	127	310	Δ136
財務CF	Δ44	4	Δ3	Δ5	Δ193	Δ7

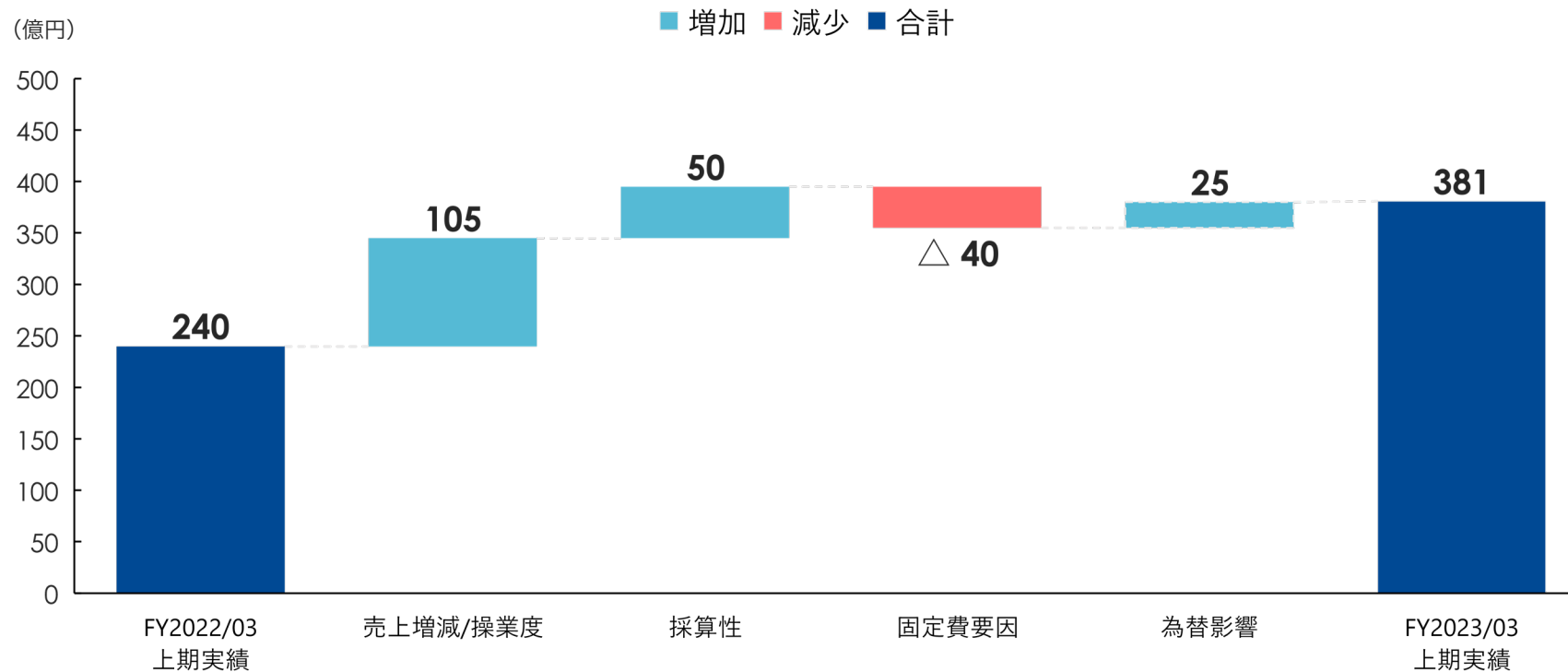
	FY2022/03	FY2023/03
	上期	上期
営業CF	417	201
投資CF	Δ28	Δ28
FCF	388	173
財務CF	Δ40	Δ201

※ FCF：フリーキャッシュ・フロー

- 上期の営業CFは、棚卸資産の増加や法人税等支払額の増加により前年同期比減少
- 2Qの営業CFは、グループ内配当源泉税の納付等により一時的に悪化

営業利益増減分析

FY2022/03 上期実績 vs FY2023/03 上期実績



※利益要因は、5億円刻みの「約」表記

>>売上増減/操業度、採算性改善のほとんどがSPE

>>固定費の増加要因は、主にSPEの成長投資（人件費、業績連動賞与、研究開発費など）

>>為替は、SPE、GA、PEに影響

事業環境および業績予想

2022年10月28日

株式会社SCREENホールディングス
代表取締役 取締役社長 最高経営責任者（CEO）

廣江 敏朗

事業環境および業績予想

■ 事業環境

- SPE
 - ・メモリー向けは減少するも、ファウンドリー、ロジック中心に設備需要は依然強い
 - ・上期としては、売上、営業利益、営業利益率、過去最高
 - ・2Q受注、1Q並みの高水準
- GA、PE：売上、営業利益ともに順調（為替の影響も追い風に）

■ 通期業績予想

- 通期予想は据え置き
 - 売上、利益ともに過去最高を更新予定
 - 上期は順調に推移、下期はリスク要因を織り込む
- 持続的な成長に向け、
設備投資、研究開発、減価償却はいずれも過去最大

セグメント別概況

市場動向および見通し

- **WFE：2022年は+10%程度の成長を見込む（US\$100bn程度）**

- ・ ファウンドリー・ロジック：各技術ノードへの投資優先順位に調整あるも堅調を維持
- ・ メモリー：投資の一時的な減速とともに、地政学的な影響も顕在化

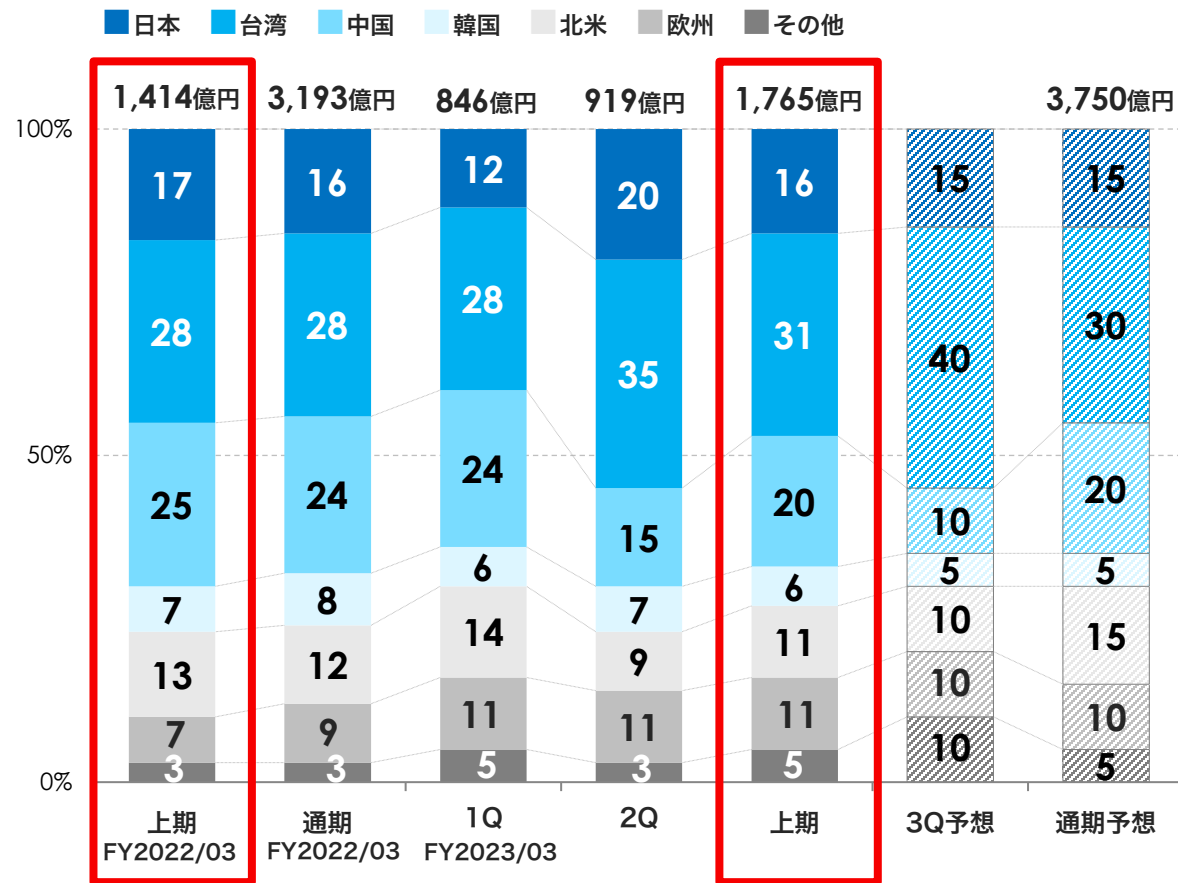
- **アプリケーション別の動向：**

ファウンドリー	エンド需要の減速はあるものの、中長期的な半導体市場拡大を見据えた投資が継続
ロジック	堅調な投資を継続するも一部投資タイミングに調整あり
メモリー	投資減速だけでなく地政学的な影響も。市場回復のタイミングを注視
画像素子	日本およびアジアでの投資が堅調に推移
パワーデバイス	欧州大手中心に、日本・アジア地域での投資も堅調に推移
中国市場	成熟ノード半導体・メモリーなど投資意欲活発なるも、今後の輸出規制の影響を注視
その他	アナログ、センサー、光学など依然堅調な投資が続く

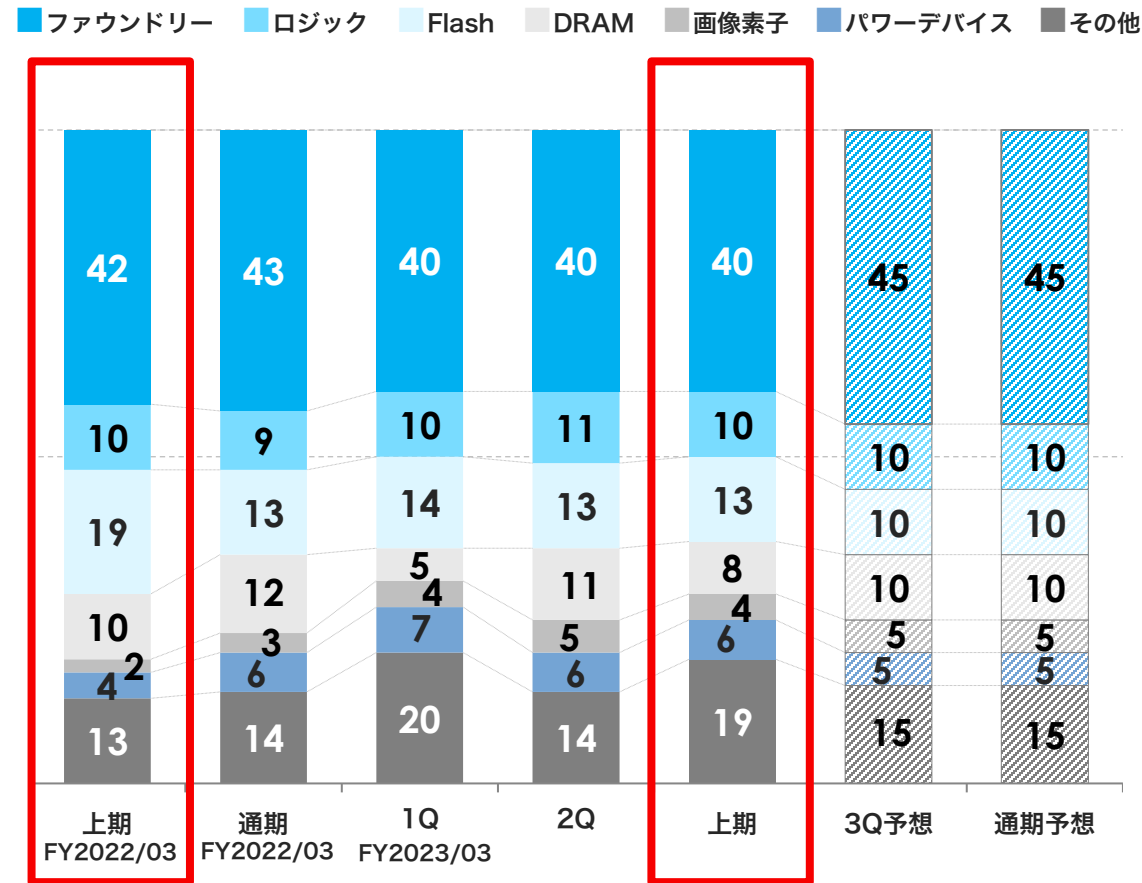
- ▶ 微細化に伴う洗浄ニーズが高まる先端～ボリュームゾーンから成熟ノードまで、多様なソリューションを提供
→供給責任を果たすべく、更なる生産・開発体制の強化で臨む

SPE

連結・地域別 - 仕向地ベース



単独・アプリケーション (デバイス) 別

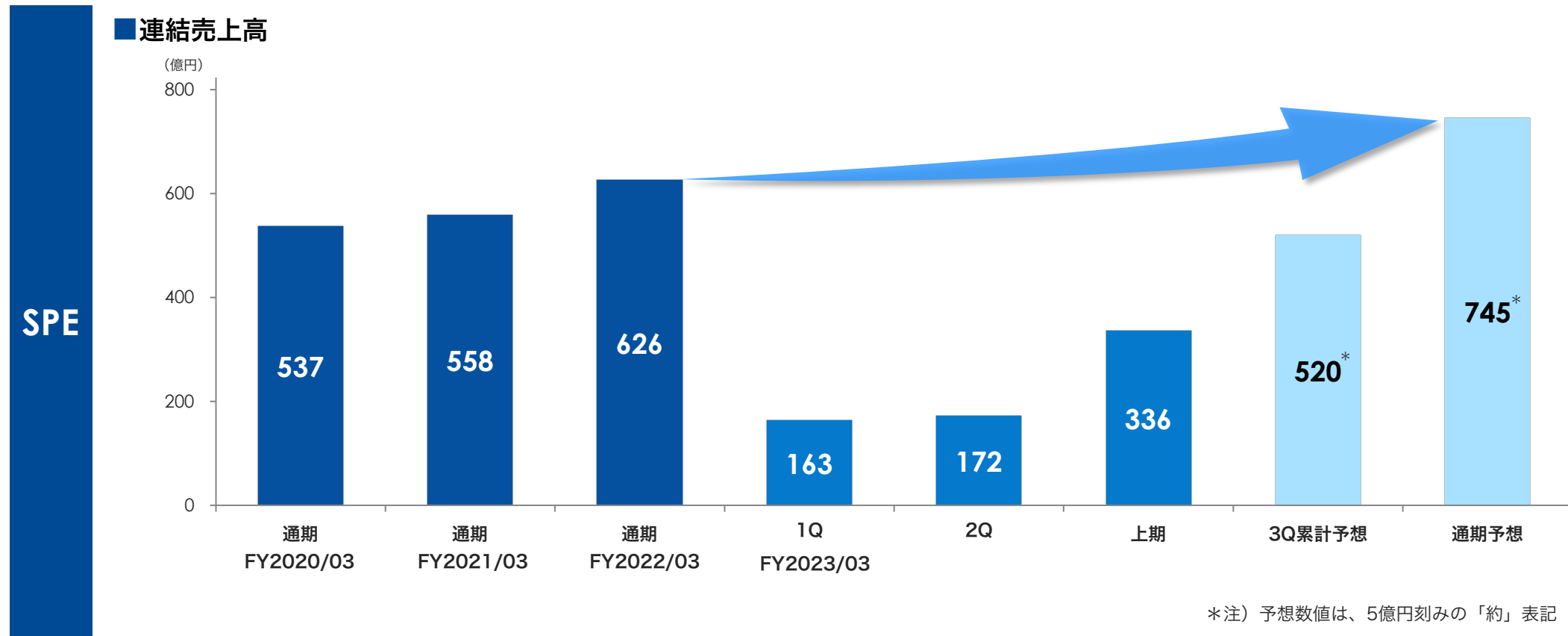


*注) 予想比率は、5%刻みの「約」表記

- 地域別：(上期YoY) 台湾、欧州で増 (QoQ)：日本、台湾で大幅増
- アプリケーション別：(上期YoY) 「その他」大幅増、パワーデバイス、画像素子微増 (QoQ)：DRAM増

セグメント別概況

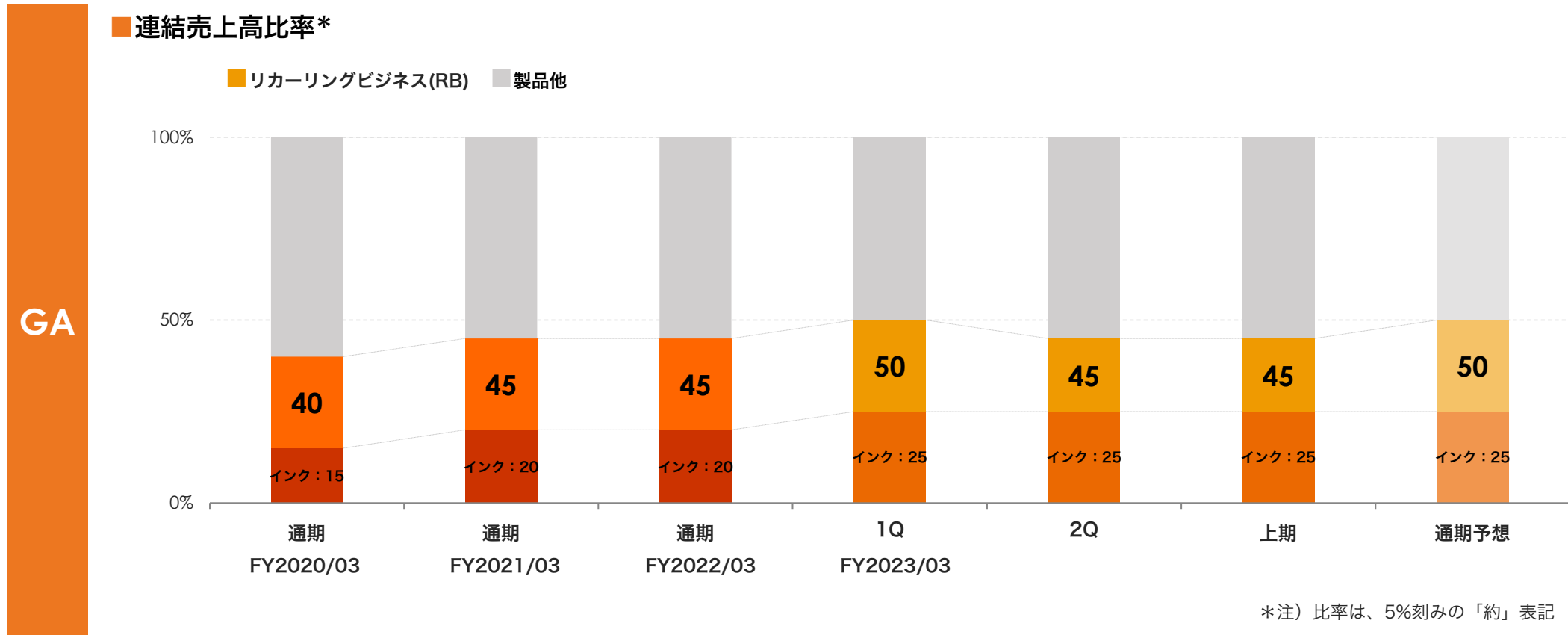
■ ポストセールス (PS)



■ 2Q：1Qより増

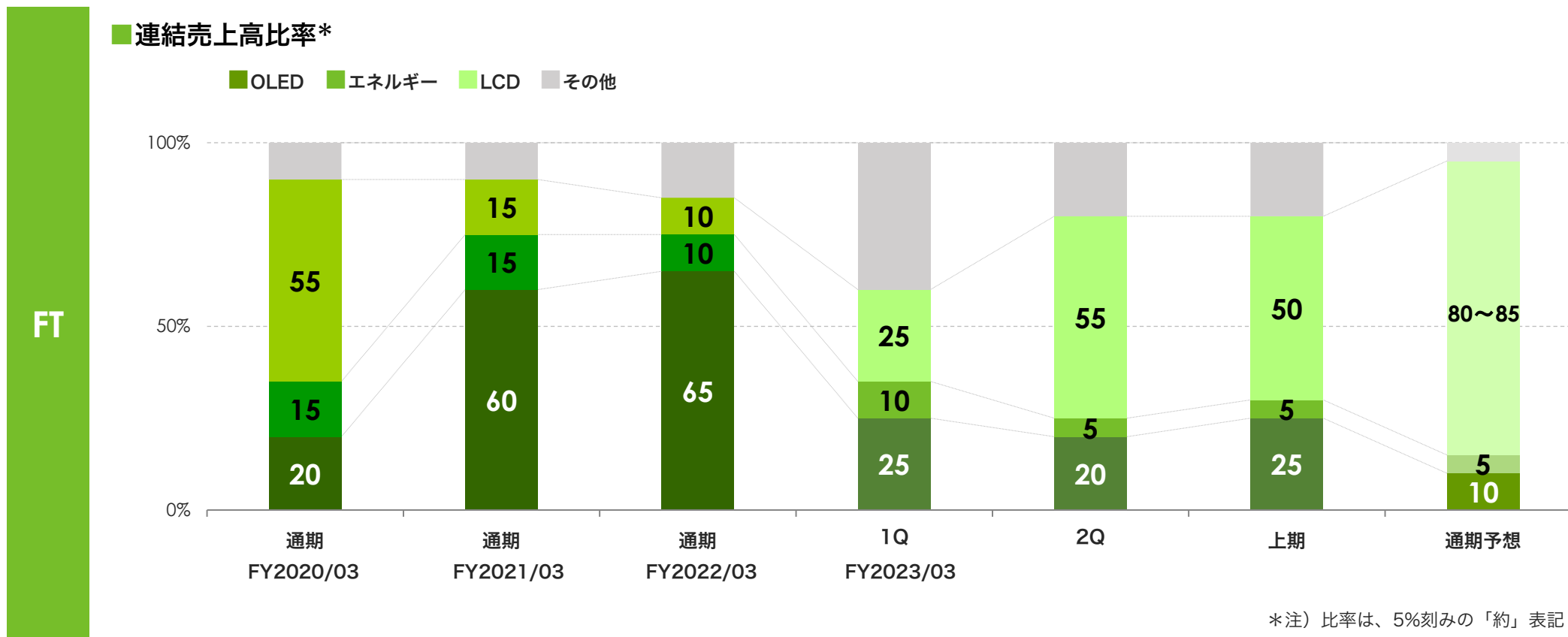
■ 今後：通期予想も増額。新規納入装置向けのメンテナンス、改造などで、さらなる営業利益率改善に期待

リカーリングビジネスは引き続き高位安定。利益、回復基調



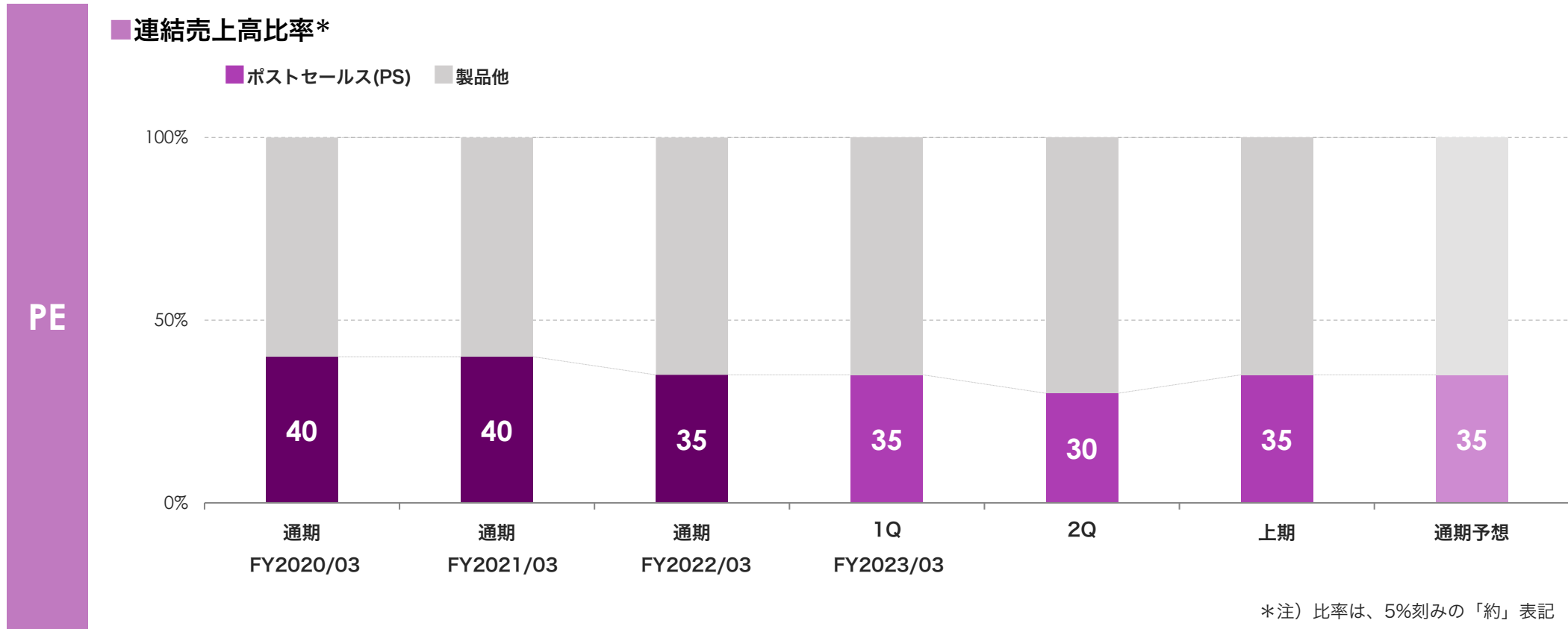
- インクを中心とするリカーリングビジネス (RB) は引き続き堅調
- 北米、欧州での旺盛なPOD需要に対応
- 上期の営業利益率7.3%、通期も同水準の維持を見込む

ディスプレイ市場は不透明、売上構成はLCD中心



- 2Qは上海のロックダウンの影響も減り、1Q比で売上は回復
- 今期、ディスプレイ市場は不透明な環境が続くと予想。売上はLCD (LTPS) 中心
- 将来には新規事業のエネルギー（水素関連、燃料電池関連）領域での成長に向け、事業ポートフォリオの変革を目指す

▶ ポストセールスは安定推移



- データセンター向け需要が引き続き旺盛
- さらなる成長に向け、新製品開発の強化継続
- 今期、高水準の営業利益率を見込む

FY2023/03 業績予想 (2022年10月28日時点)

※ は過去最高

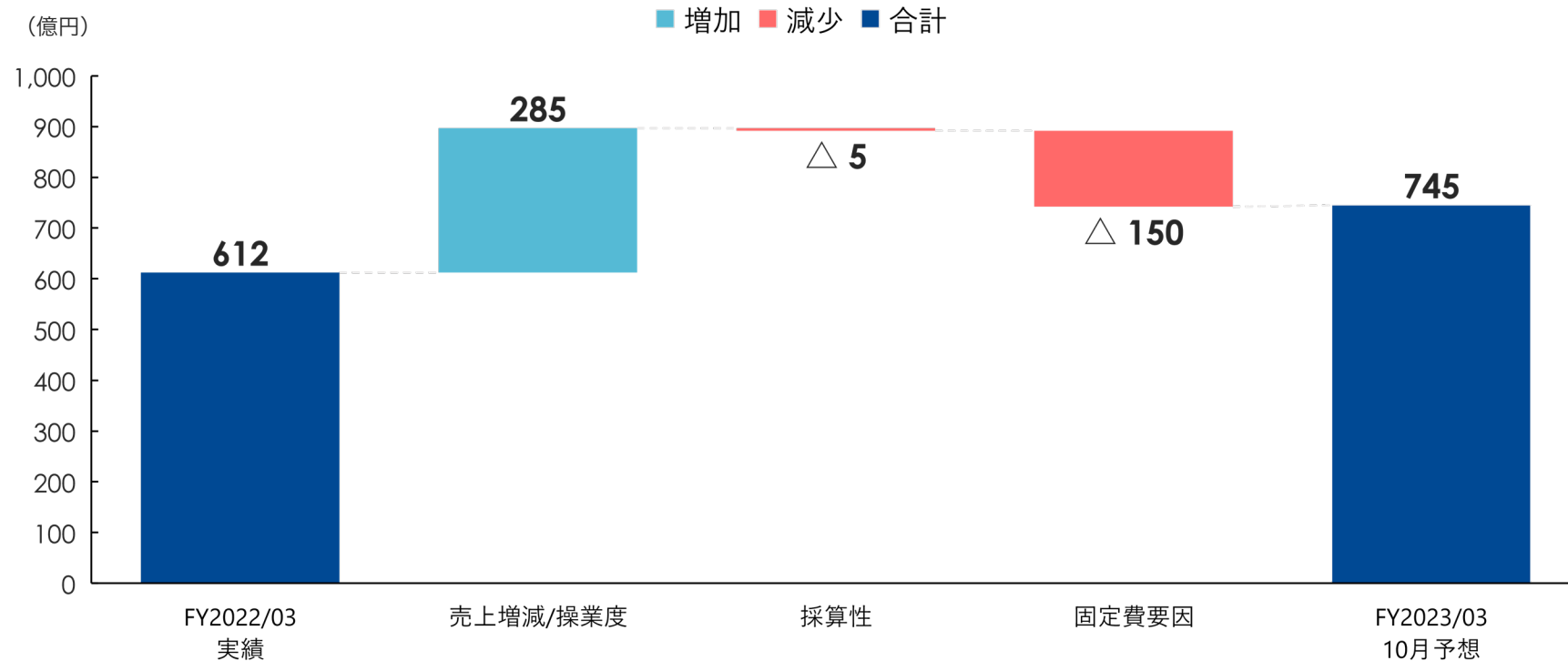
	FY2022/03	FY2023/03						
		通期実績	上期		下期		通期	
			7月発表 予想	10月発表 実績	7月発表 予想	10月発表 予想	7月発表 予想	10月発表 予想
(億円)								
売上高	4,118	2,150	2,184	2,450	2,416	4,600	4,600	
SPE	3,193	1,775	1,765	1,975	1,985	3,750	3,750	
GA	433	195	222	205	188	400	410	
FT	332	110	115	175	165	285	280	
PE	133	60	76	80	74	140	150	
その他および調整	25	10	4	15	6	25	10	
営業利益	612	345	381	400	364	745	745	
営業利益率	14.9%	16.0%	17.5%	16.3%	15.0%	16.2%	16.2%	
SPE	628	375*	383	415*	407	790*	790*	
GA	16	10*	16	15*	14	25*	30*	
FT	5	△10*	△10	0*	△10	△10*	△20*	
PE	20	10*	15	10*	10	20*	25*	
その他および調整	△58	△40*	△23	△40*	△57	△80*	△80*	
経常利益	594	335	386	395	344	730	730	
親会社株主に帰属する 当期純利益	454	260	296	240	204	500	500	

注) FY2023/03 (通期) 想定為替レート>> 1USD=¥140、1EUR=¥140
 想定為替感応度 (通期営業利益ベース) >> 対USD: ¥1.4億、対EUR: ¥0.3億

* セグメント別営業利益予想: 5億円刻みの「約」表記

営業利益増減分析

FY2022/03実績 vs FY2023/03 10月予想



※利益要因は、5億円刻みの「約」表記

- >>売上増減/操業度は、ほとんどがSPE
- >>採算性のマイナス要因は、ほとんどがFT
- >>固定費の増加要因は、主にSPEの成長投資（人件費、業績連動賞与、研究開発費など）

(億円)	上期実績 (前期実績)	下期予想 (前期実績)	通期予想 (前期実績)
減価償却費	43 (47)	57 (47)	100 (95)
設備投資額*1	89 (41)	221 (92)	310 (134)
研究開発費*2	119 (105)	171 (135)	290 (240)

*1：SPEの生産・サービス体制強化への投資含む

*2：HD開発を強化し、LS分野、AI分野、ADPKG分野、エネルギー（水素関連）分野への新製品開発を目指す

>>配当予想について

- ・親会社株主に帰属する当期純利益の増加を踏まえ増配を予定（5月予想を据え置き）
- ・中期経営計画の連結総還元性向30%以上方針に沿って、株主の皆様へ還元

(円)	通期
1株当たり配当予想	322

最近のグループニュース (Webサイトより抜粋：2022年7月28日～10月28日)

HD

- 「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業200社」に選出 (2022.7.28)
- 半導体洗浄時におけるナノ構造物の倒壊メカニズムを解明
～倒壊挙動の解明により、半導体のさらなる微細化・高集積化に寄与～ (2022.7.29)
- 広島大学とSCREEN、腎臓移植用医療機器「オーガンポケット」の臨床試験を終了
～より確実な腎臓移植をサポートする医療機器を開発～ (2022.8.9)
- 京都府が実施する「サプライチェーン脱炭素化支援事業」の連携事業者に選定 (2022.9.1)
- AI・人工知能開発関連のベンチャー企業 Laboro.AIへ追加出資を実施 (2022.9.14)

SPE

- 半導体製造装置業界初、CO₂排出量算定・可視化クラウドサービス「zeroboard」を導入 (2022.8.31)
- 半導体気候関連コンソーシアム (Semiconductor Climate Consortium) へ参画 (2022.10.24)

FT

- 台湾・AUO社から「Excellent Equipment Partners Award」を受賞 (2022.9.22)
- 第8世代基板に対応した有機ELディスプレイ製造装置を発売
～「SK-E2200G」「SK-E2200H」を新たにラインアップ～ (2022.10.18)

ESG関連の取り組み

■ E（環境）

- 半導体製造装置業界初、CO₂排出量算定・可視化クラウドサービス「zeroboard」を導入
 - より効果的な低炭素化技術開発を推進し、環境性能の高い装置を市場へ提供（詳細はP27を参照）
- 京都府が実施する「サプライチェーン脱炭素化支援事業」の連携事業者に選定

■ S（社会）

- オミクロン株対応・第4回新型コロナウイルスワクチン職域接種の実施（10月下旬～12月中旬、於 本社・彦根）
- 健康経営の基盤強化
 - 健康づくりセミナーの開催（第2回：7月、第3回：9月、国内グループ従業員対象）
 - いきいき健康づくりキャンペーンの開催（11月、国内グループ従業員対象）

■ G（ガバナンス）

- ESGをベースとしたSR（エンゲージメント）活動を強化中
 - 面談の対話ツールには、アニュアルレポート2022年度版（8月発行）を使用
 - 継続的にSR/ESG面談を重視。国内外の議決権行使・ESG担当者との対話を実施中
- ESG系インデックス銘柄に選定（継続）
 - 当社は、FTSE4Good Index Series（2004年から）、FTSE Blossom Japan Index（2017年から）、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index（2022年から）、および、SOMPOサステナビリティ・インデックス（2018年から）の構成銘柄です



Topics>>

■ アニュアルレポート2022 発行<2022年8月>



◆ テーマ 「私たちは世界を変える力を持っている」

◆ 構成 価値創造プロセスとの整合性・ストーリー性を重視

>>当社グループの存在意義の再認識からスタートし、
10年後のあるべき姿を見据えて、価値創造プロセスの構成要素を詳解

<https://www.screen.co.jp/ir/annual>



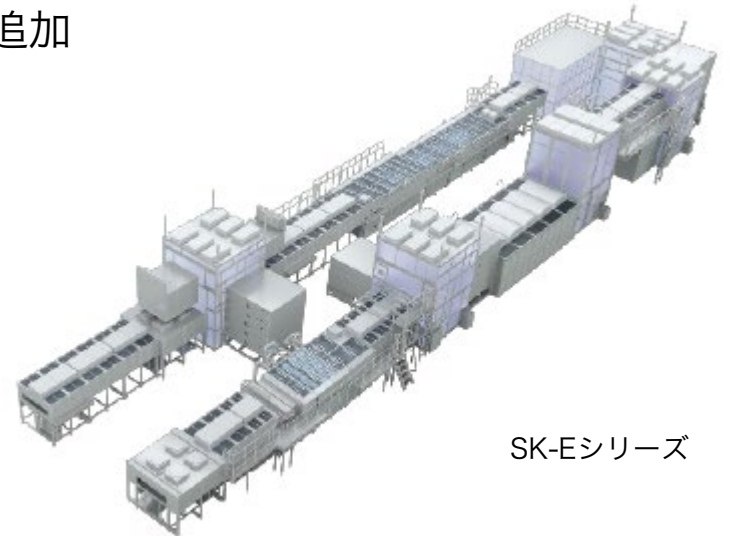
◆ 改訂ポイント

- 前年版に引き続き、IR・SR面談の対話ツールを目指した
- CEO、CFOメッセージの内容をさらに充実（投資家の皆さまからのFAQをベースに考案）
- 価値創造プロセスの改訂（構成要素を別ページで詳細解説）
→特に、ポートフォリオマネジメント、イノベーションマネジメント、SCREEN Valueの考え方についての説明を新規掲載
- コア技術の製品への展開を明確化
- マテリアリティの特定（取締役会決議）
- 中計の進捗状況報告
- 事業を通じた価値創造：インタビュー記事（営業/ゲンバKPI事例）の掲載、新規事業情報の充実
- 非財務情報の開示充実（E：TCFD提言に基づく取り組み、S：人的資本の強化、G：社外取締役座談会 ほか）

第8世代基板に対応した有機ELディスプレイ製造装置を発売

～「SK-E2200G」「SK-E2200H」を新たにラインアップ～ <2022年10月18日>

- 第8世代基板に対応する2機種を開発し、「Eシリーズ※1」のラインアップに追加
 - ・ SK-E2200G：バックプレーン形成工程用塗布現像装置
 - ・ SK-E2200H：タッチセンサーパネル形成工程用塗布現像装置
- タクトタイムの短縮により、生産性を従来機種比※2約10%向上
装置の全長を従来機種比※1約30%短縮し省スペース化を実現
- SK-E2200Gは露光装置2台を接続する「露光装置1by2方式※3」にも対応
- 2022年10月から販売を開始



SK-Eシリーズ

- ※1 有機汚染や微小なごみ、静電気など、有機ELディスプレイ製造工程における課題解決により歩留まり向上を実現する、業界トップクラスの高生産性を備えた製造装置群
- ※2 第8世代の従来機種比：当社「SK-2200G」との比較
- ※3 従来、2台の装置と露光装置2台で構築していたラインを1台の装置で構築できるため、大幅な省スペース化を実現。また、異なるサイズのパネルを同一基板から生産する「MMG (Multi Model on Glass)」に対応できる他、露光装置2台を並行処理することによってラインタクトよりも長い時間の露光処理も可能

>>有機ELディスプレイのニーズが高まりに合わせ、よりパネルが多く取れる第8世代基板に対応
>>今後も「Eシリーズ」のラインアップを拡充し、高精細・高付加価値ディスプレイの生産に貢献

半導体気候関連コンソーシアム（Semiconductor Climate Consortium）へ参画

<2022年10月24日>

「半導体気候関連コンソーシアム（Semiconductor Climate Consortium：SCC）」をSEMIが設置。
（株）SCREENセミコンダクターソリューションズは、創設メンバーの一員として参画する

- リーダーシップレベルでの参画により、気候変動課題への効果的な半導体エコシステムの取り組みを提言。
半導体製造装置における水や薬液の使用量削減を積極的に推進する
- サプライチェーンにおけるScope3※の低減に取り組むため、SCCに参画するパートナー企業と連携を図る

※ 事業者自ら排出している温室効果ガス（二酸化炭素等）であるScope1、Scope2以外の
事業者の活動に関連する他社の温室効果ガスの排出量

■ SCC：世界の気候変動を産業革命前と比較して1.5°C以内に抑えるため、ネット・ゼロという野心的な目標を設定。コラボレーションや情報発信を通じて、先進的な気候変動対策を推進する。



Semiconductor
Climate Consortium
FOUNDING MEMBER

>>今後も脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の構築と持続的な発展に貢献すべく、事業活動を推進する

半導体製造装置業界初、CO₂排出量算定・可視化クラウドサービス「zeroboard」を導入

<2022年8月31日>

CO₂排出量を可視化し、環境負荷低減への取り組みをさらに強化。
GHG（温室効果ガス）排出量算定・可視化するクラウドサービス「zeroboard（ゼロボード）」
導入により、SCREENの製品およびサービス別にCO₂排出量を算定する

- zeroboardについて
 - 企業活動やそのサプライチェーン由来のGHG（温室効果ガス）排出量を、国際基準であるGHGプロトコルに基づき、算定・可視化できるクラウドサービス
 - 株式会社ゼロボードが開発、長瀬産業株式会社が販売・展開する
- CO₂排出量の算定範囲を拡大
 - 従来: 装置使用時の一部のエネルギーに関するCO₂排出量を算出
 - 今回: 装置使用時の全てのエネルギーの原材料調達から廃棄までのCO₂排出量を算出

>>半導体製造装置において、より効果的な環境対応開発を行い、環境性能の高い装置を業界へ提供

■広島大学とSCREEN、腎臓移植用医療機器「オーガンポケット」の臨床試験を終了 ～より確実な腎臓移植をサポートする医療機器を開発～ <2022年8月9日>

広島大学とSCREENは、SCREENが開発した腎臓移植用医療機器「オーガンポケット」の安全性および有用性を確認する臨床試験を終了。今後、医療機器として販売するとともに、腎臓以外の臓器への展開も視野に入れ、研究開発を進めていく。

- 移植手術中の腎臓の温度上昇に対処するため、臓器を一時的に被覆して冷却状態を保持するための医療機器「オーガンポケット」を開発。特殊ゲル素材でできた巾着袋状の器具で移植臓器を包み込み、接触熱や物理刺激を遮断して臓器を適切に保持する医療機器。透明で非常に柔らかい特殊素材が密着して腎臓を保護しつつ、製品開口部から露出した血管や尿管の血管吻合が可能となる
- 広島大学大学院医系科学研究科消化器・移植外科学の大段 秀樹教授の主導のもと、臨床試験を実施し、昇温抑制をより確実に行える手技であると示された
- 本製品は医療機器として届出済。SCREENが製造・販売していくとともに、今後は腎臓以外の臓器への展開も視野に入れ、研究開発を進める予定

>>臨床試験の結果は年内に学会などで発表予定

>>今後も共同研究を通じた産学連携を強化し、移植医療への発展に貢献

半導体洗浄時におけるナノ構造物の倒壊メカニズムを解明

～倒壊挙動の解明により、半導体のさらなる微細化・高集積化に寄与～ <2022年7月29日>

北海道大学低温科学研究所の木村勇氣准教授らの研究グループと、SCREENは、半導体洗浄時のナノ構造物の倒壊挙動を解明。観察手法確立により、半導体製造プロセスの課題解決に期待

- 半導体洗浄時のナノ構造物が倒壊は、液体の蒸発時に表面張力の影響が原因。集積イオンビーム装置により半導体表面に加工したナノ構造物を切り出し、洗浄工程で主に使用される2-プロパノール（IPA）とともに液体観察用試料ホルダー内に封入する手法を開発。これにより、透過型電子顕微鏡（TEM）によるナノ構造物の倒壊挙動を観察に成功



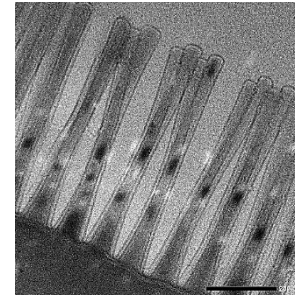
北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

LC-TEM

基板観察技術

SCREEN

基板処理技術



IPA乾燥後のSiパターンの断面(TEM像)



<https://www.protochips.com/products/poseidon-select/>

>>乾燥挙動の理解を深め、SCREENの乾燥技術の高度化を図る

>>本研究成果は、2022年6月22日（水）公開のACS Applied Nano Materials誌に掲載

前年同期比

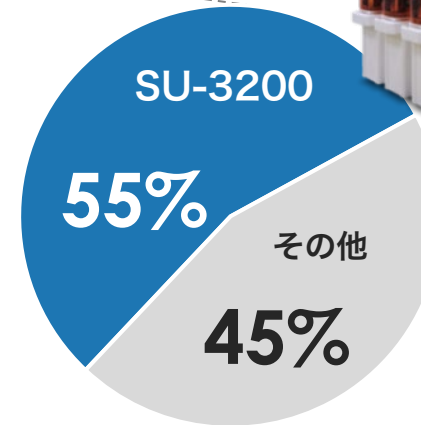
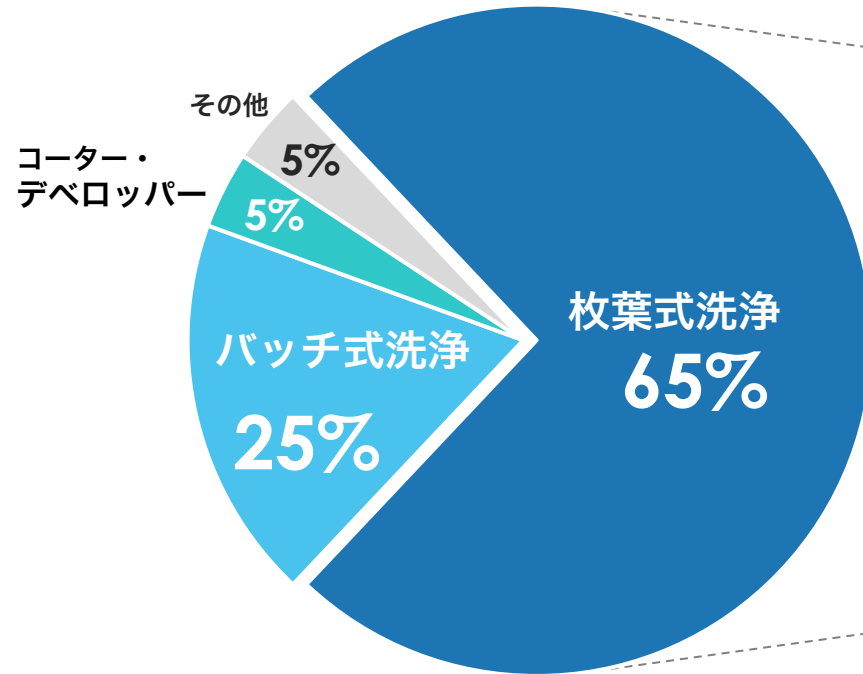
	FY2022/03	FY2023/03	増減	
	上期	上期		
(億円)				
売上高	1,414	1,765	351	24.8%
営業利益 営業利益率	243 17.2%	383 21.7%	140	57.9% 4.6pt

前四半期比

	FY2023/03	FY2023/03	増減	
	1Q	2Q		
(億円)				
売上高	846	919	72	8.6%
営業利益 営業利益率	188 22.3%	195 21.3%	7	3.8% △1.0pt

Appendix>> 単独・売上高比率

製品別売上高比率 - FY2023/03 上期



(%)	FY2020/03 通期	FY2021/03 通期	FY2022/03 通期	FY2023/03 1Q	2Q	上期
枚葉	65	70	70	65	65	65
バッチ	25	25	25	30	25	25
コーデベ	5	5	5	5	5	5
その他	5	0	0	0	5	5

※上記比率は、5%刻みの「約」表記

Appendix>> セグメント別業績

前年同期比

	FY2022/03	FY2023/03	増減	
	上期	上期		
(億円)				
売上高	209	222	13	6.2%
営業利益 営業利益率	6 3.2%	16 7.3%	9	143.1% 4.1pt

前四半期比

	FY2023/03	FY2023/03	増減	
	1Q	2Q		
(億円)				
売上高	105	116	11	10.5%
営業利益 営業利益率	6 6.4%	9 8.2%	2	41.8% 1.8pt

Appendix>> セグメント別業績

前年同期比

	FY2022/03	FY2023/03	増減	
	上期	上期		
(億円)				
売上高	175	115	△60	△34.4%
営業利益 営業利益率	1 0.9%	△10 △9.4%	△12	- △10.4pt

前四半期比

	FY2023/03	FY2023/03	増減	
	1Q	2Q		
(億円)				
売上高	30	84	54	177.1%
営業利益 営業利益率	△8 △27.0%	△2 △3.1%	5	- 23.9pt

Appendix>> セグメント別業績

前年同期比

	FY2022/03	FY2023/03	増減	
	上期	上期		
(億円)				
売上高	58	76	17	30.5%
営業利益 営業利益率	9 16.2%	15 20.8%	6	68.2% 4.7pt

前四半期比

	FY2023/03	FY2023/03	増減	
	1Q	2Q		
(億円)				
売上高	33	42	9	27.5%
営業利益 営業利益率	4 14.0%	11 26.2%	6	138.5% 12.2pt

Appendix>> 主要数値の変遷

(億円)	FY2018/03	FY2019/03	FY2020/03	FY2021/03	FY2022/03	FY2023/03 予想
売上高	3,393	3,642	3,232	3,203	4,118	4,600
営業利益	427	296	125	244	612	745
営業利益率 (%)	12.6	8.1	3.9	7.6	14.9	16.2
総資産	3,658	3,809	3,479	3,826	4,593	-
自己資本	1,708	1,791	1,739	2,083	2,477	-
自己資本比率 (%)	46.7	47.0	50.0	54.5	53.9	-
ROE (%)	18.2	10.3	2.8	7.9	19.9	-
減価償却費	57	68	88	96	95	100
設備投資額	144	240	79	78	134	310
研究開発費	208	228	215	215	240	290
EPS (円)	608.62	387.10	107.37	325.21	976.55	1,057.84
期末配当 (円)	110	97	30	90	293	322



Innovation for a Sustainable World